

令和2年度

病害虫発生予察特殊報(第1号)

令和2年4月2日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：スイートピー黒根病

病原菌名：*Thielaviopsis basicola* (Berkley & Broome) Ferraris

作物名：スイートピー

1 発生経過

- 令和元年10月に、県内の生産者から当所普及指導部を通じて、スイートピーの主茎地際部が黒変するとともに、地上部が萎凋する障害(図1)の診断依頼があった。
- 当所生産環境部による病原菌の形態調査の結果から、病原菌を *Thielaviopsis basicola* (Berkley & Broome) Ferraris と同定した。
- Thielaviopsis* 属菌によるスイートピー黒根病の発生は1995年岡山県で確認されており、神奈川県では初めての確認である。

2 病徴および発生生態

- 病徴として、主根が黒変し、細根は消失する(図2)。主茎地際部から根にかけて、表面に亀裂を生じることもある。罹病株は萎凋症状が見られ、生育が不良になる。
- 病原菌は、糸状菌の一種であり、土壤中に生息して土壌伝染する。罹病残渣中で生存して厚膜孢子や内生分生子を形成し、伝染源になる(図3)。また、厚膜孢子は土壌中で長期間生存できる。
- Thielaviopsis basicola* は多犯性であり、タバコ、ニンジン、レタス、スミレ類などで発生が報告されている(日本植物病理学会 日本植物病名目録、2020年1月版)。

3 防除対策

- 令和2年3月現在、スイートピー黒根病に対する農薬登録はない。
- 本病の発生が確認されたほ場での作業終了時には、トラクター等の農機具類、長靴などの洗浄を徹底し、病原菌が残存する土壌が他のほ場に拡散しないようにする。
- 発病株を確認したら抜根のほか、発病株の周囲の土を速やかに除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分する。病原菌は多犯性のため、他の作目に感染しないように廃棄場所等に注意する。
- 蒸気や太陽熱消毒などの土壌消毒を行う。

(写真)



図1 地上部の萎凋症状



図2 厚膜胞子の形成による主茎地際部の黒変症状

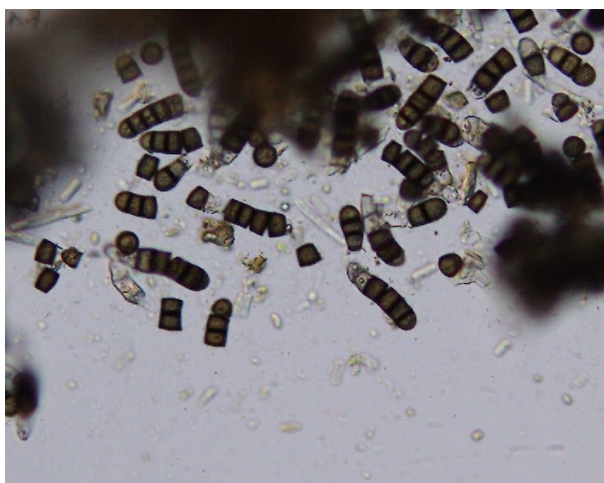


図3 病原菌の厚膜胞子

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>